

日時 2018年7月19日(木) 午後6時～8時

場所 文京区区民センター 3F-B 会議室

出席 9名

- 1、三分坂と江戸銭価（横関英一『江戸の坂 東京の坂』より） 担当：松本崇男  
三分坂（東京都港区赤坂5丁目と7丁目の間）の坂名の由来が古地図（江戸切絵図尾張屋板『今井谷六本木赤坂絵図』、御府内沿革地図）や古文書（江戸名所図会、再考江戸砂子、近世風俗志）などを例に説明された。
  - a、三分坂は、「さんぷんざか」と読み、江戸の坂名である。
  - b、『新編江戸志』（寛永年間・1789～1801）に「三分ン坂。種徳寺前の坂。此坂けはしき故、車を推上る時、銀三分の車力増したるゆへ云」と記して、坂名は車の押し代として銀三分（さんぷん）を割りましたからそう呼んだと記している。
  - c、江戸の貨幣は金貨に「分」（ぶ 金一両の四分の一）、銀貨に「分」（ふん・ぷん 金一両の600分の一）があり、間違えやすい。銀三ぷんは銭約20文ほどである。
  - c、江戸時代の陸上輸送の一つに「大八車」があった。大八車の名前は八人分の人力に匹敵するから（近世風俗志）とも、車台の長さが八尺（役2.4m）あったからとも云う。
  - d、運送にかかわる人足は「車力人足」と「立ちん坊」である。「車力人足」は荷車の車夫で、「立ちん坊」は、大量の積み荷の発生する市場や急坂で待機し、荷車を後押しして小金を稼いだ。荷車を押す人の姿は『江戸名所図会』にも描かれている。
  
- 2、最近見つけた東京の坂道事情 担当：串田政次
  - a、さんさん坂（港区南青山3丁目1と3の間）、山屋坂（品川区小山7丁目17と旗の台6丁目1）他、最近新たに見つけた東京23区内の坂、8坂が紹介された。
  - b、市制55周年を記念して公募された小金井市の坂（みはらし坂、観音坂、金蔵院の坂、荒牧坂、さわらび坂）が紹介された。
  - c、千代田区の坂標が新しくなり、坂の説明も書き換えられているとの説明があった。